

# 新薬登場で

# 大きく変わる C型肝炎治療



ウイルス感染により肝臓に炎症が起こり、放置すると肝がんのリスクを高めるC型肝炎に対して、これまでになく高い効果が期待される新薬治療が先ごろ登場した。順天堂大医学部附属静岡病院の玄田拓哉医師に最新の治療法について聞いた。

〈企画・制作／静岡新聞社営業局〉

らせる治療法しか残されていません。しかし、残念ながら肝臓治療法のみでは肝硬変や肝がんへの進行を完全に止められませんでした。

## 完治へ再治療を

―新薬治療の特徴を教えてください

玄田 今年の9月からインターフェロンに頼らずにウイルスを排除できる全く新しい薬が使えるようになりました。「ダグラタスビル」と「アスナプレビル」という2種類の飲み薬を半年間内服するだけの治療で80%以上の患者さんを完治させることができるのです。

この薬は患者さんが自覚する副作用発生の頻度も非常に低く、注射のため通院する必要もないため、患者さんにとっては本当に負担の少ない治療になります。

さらに、病気が進行し、すでに初期の肝硬変になってしまっているような患者さんでも、未発症の患者さんと同じ治療効果が得られることが分かっています。

現在のところ、難治型のC型肝炎で、以前インターフェロン治療を受けたが治らなかった、あるいは、ほかの持病があるためにインターフェロンが使えないといった患者さんが治療対象になっていました。これまでこうした理由でウイルス排除をあきらめ、肝臓治療法のみで経過観察となっていた患者さんは、この機会にぜひもう一度完治を目指した治療を考えてほしいと思います。

この新しい治療は薬の内服だけで非常に簡単ですが、薬の効きにくい耐性ウイルスに感染した患者さんが一部いる

―現在主流の治療法を教えてください

玄田 C型肝炎は国内の患者数が150万人以上と推定されるわが国最大の感染症です。C型肝炎の多くは無症状ですが、放置すると肝硬変や肝臓がんといった命に関わる病気を引き起こすため、C型肝炎ウイルスを排除する治療が必要になります。現在のC型肝炎治療ではインターフェロンという注射薬が使われています。1992年に認可されてから現在まで20年以上もの治療と研究を積み重ねた結果、最も新しいインターフェロン治療は、いわゆる「難治型」に属する患者さんでも90%近い確率でウイルスを排除、つまり根治することができるとなりました。

しかし、インターフェロン治療は患者さんによっては副作用により、治療の継続が難しくなったり、あるいは一部にまったくインターフェロンの効果が得られなかったりするケースがあることも事実です。

インターフェロンが使えない、あるいは効かない患者さんたちには「肝底護(びご)療法」という、病気の進行を遅

ことや、治療中まれに肝機能障害が起こるといった難しい面もあるため、ウイルス性肝炎治療の専門医に新薬での治療の可能性を相談してください。

## まず検査で感染確認

―肝炎治療の今後の課題はなんでしょうか

玄田 インターフェロン治療の進歩と、新しい内服薬治療の登場により、C型肝炎は治療を受けさえすれば完治できる可能性が高い時代になりました。

今後の大きな課題は自分の感染を知らない「潜在的患者」をより多く見つけることです。C型肝炎はほとんど自覚症状がないため検査を受けなければ感染しているかどうかは分かりません。現在の衛生環境では新しく感染する危険性が非常に低いため、通常は一生に一度検査をすればよいと考えられています。このため、県内各地の保健所や指定医療機関で無料検査が受けられる体制が整っています。

知らない間に感染している可能性が誰にでもあるのがC型肝炎です。まだ自分の感染の有無を知らない人は、まずは検査を受けることが重要です。

## 肝疾患に関する相談・問い合わせ

順天堂大医学部附属病院内  
「肝疾患相談支援センター」まで。

- 住所 伊豆の国市長岡1129
- 電話 055(948)5168  
受付時間10～16時(土日祝を除く)
- ファクス 055(948)5182